

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271400404		
法人名	雲南福祉サービス株式会社		
事業所名	グループホーム加茂の郷(ハナミズキユニット)		
所在地	島根県雲南市加茂町南加茂706-4		
自己評価作成日	平成30年9月10日	評価結果市町村受理日	平成30年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2018\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd](http://index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成30年10月9日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の重度化により、職員の介護力も重要となっています。定期的に園内研修や避難訓練の実施、年1回職員全員が救急法の受講をしスキルアップに努めています。  
ご本人の思いやしいことをくみ取り、尊重しています。入居者中心の生活支援に努め、利用者にとっての『家』を目指しています。認知症の方の中には、意思の疎通が難しい方もいらっしゃいますが、その方の想いを大切にし、その方のペースに合わせた支援を行っています。  
行事を通して地域交流を図り、良い関係作りにも努めています。ボランティアに来て下さる方も、増えてきています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度は中庭を車椅子も通れるように整備し四季折々の花を眺め、柿を収穫したり季節を感じ、天気の良い日は大パラスルを設置し日光浴やお茶を飲んでいる。新しく開設された保育園との交流や大正琴ボランティアの来訪もあり4ユニット合同で演奏を楽しんでいる。職員は協力し合い自己目標を持ち認知症の理解、言葉かけ研修を通してケアの向上を図っている。利用者の部屋に泊った家族から一晩中の様子や居室の温度等の意見、要望を聞くこともあり、利用者を中心に良い事業所となる様日々励んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、玄関、会議室の見える所に掲示されている。会議で理念が実践に繋がられるよう話し合いを行っている。	理念に沿ったケアを心がけ関わり方や言葉遣いに気を配っている。職場会議でも話し合って理念を共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	入居者様が地域の行事への参加、地域の方に園の行事に参加していただき交流を図っている。毎年継続している行事もある。毎月、園便りを配布し、園の様子を伝えている。	開設当時から地域の人に来てもらい笹巻づくり等を一緒に行っている。ボランティアの来訪や、地域の催しに作品を出展して交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて日々の活動状況や、入居者様の状態等報告している。また、認知症の対応等お話し理解して頂いている。今年度は地域包括主催のケア会議、認知症地域支援推進会議に出席し施設の様子を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回行っている。日々の活動状況等報告し、意見を頂きサービスの向上に努めている。行政、地域の方、ご家族の出席で行っている。	事業所の取り組み状況を伝え参加者から活発な意見を受け出来ることからサービスの向上に繋げている。地域の困りごとも含めて話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報交換を行い、協力関係が築ける様努めている。	地域の連絡会に参加し日頃から最新情報を伝えてもらったり、問題や課題の解決に協力して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回の園内研修を実施し、職員全員が理解できるよう取り組んでいる。利用者の安全を図る為、やむを得ず拘束を行っている方はあるが、身体拘束廃止委員会にて話し合い、検討している。またユニット会議でも毎月カンファレンスを行っている。	身体拘束をしないケアに取り組み、利用者の行動を抑制せずさりげなく寄り添うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回虐待について園内研修を実施している。言葉遣い、対応について話し合い、虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回、園内研修を実施し、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、主任で行っている。ご家族との十分な話し合いに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱、苦情相談窓口を設置している。施設以外にも苦情相談窓口があることを説明している。意見箱の利用はない。家族には、面会時に意見や要望を聞く様努めている。	毎月家族に便りや手紙で利用者や事業所の様子を知らせている。意見、要望があれば出来ることから改善し良いケアに繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面談で意見を聞き、反映出来るよう努めている。	管理者は日頃から意見を聞く機会を作っている。利用者が気持ち良く生活出来、職員も働き易い職場となるよう提案、要望を聞き運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の働く条件に対応している。人事考課を取り入れ職員の意欲の向上、レベルアップ等向上心を持って働ける様な職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に応じ、研修を受ける機会を設けている。研修の報告、振り返りにて職員のレベルアップに繋がるよう努めている。園内研修は年6回行っており、全職員が対象。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH・小規模多機能部会にて他施設実習を行っている。外部研修に参加をし、交流の場がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人、ご家族と面談の機会を設け、情報収集を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との面談の機会を設け、要望等に耳を傾け関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人がより良い生活を送れる様、グループホームが適切であるか、他のサービス利用も含め話し合いを持っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の出来る能力を大切に、一緒に行い利用者様の暮らしの支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子を面会時や、毎月のお便り、電話等で伝えている。受診、外出等ご家族の協力も得られている。面会時には、ゆっくり過ごしていただけるよう配慮をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方や、お友達、以前の職場の同僚等の面会がある。	利用者が高齢になり友人もだんだん少なくなってきたが、地域に出掛けた時に懐かしい人と出会い声を掛けて下さることがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士、一緒に家事を行ったり、お話をされている。帰室する際も一緒に帰られる方もあり、仲の良い方の心配をされる方もある。職員は、利用者様同士の関係性を把握し、必要に応じて間に入り、より良い関係性が築ける様支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じ相談、支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望等の把握に努め、活動の支援を行っている。困難な場合には、それまでの生活やご家族から話を聴き、ご本人の望まれる生活を考え、支援を行っている。	利用者に関わる中で「ぼろっ」と出た言葉や、表情、しぐさも見逃さない様に一人ひとりに合った言葉を使い希望に沿えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居後、ご本人・ご家族、ケアマネ、利用施設より情報収集し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で観察、職員同士で情報を共有し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリング、カンファレンスを行い、ご家族からも、暮らしについての要望を聴き、プランに反映させている。	毎日の業務日誌や個別記録を参考に利用者や家族の要望も取り入れ介護計画を作成している。状態の変化がある時には都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果を記入し、見直しに活かしている。介護計画書は3か月ごとに見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月1回地域のボランティアによる絵手紙は開所当初から継続している。また、町内の保育所や地域のボランティアの方との交流があり、暮らしを楽しむことができるよう、支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の継続にて受診、往診を行っている。状態報告、相談を日常的に行える関係作りに努めている。	必要時にはかかりつけ医、家族と相談して専門医の受診をし、適切な医療が受けられる様に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職へ利用者様の状態を報告、相談をしている。看護職から適切な指示があり、早期の対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、出来るだけ面会に行き、看護師に状態を聞くようにし、経過の把握に努め、職員との情報共有も行っている。病院、ご家族との連絡も密に行い、カンファレンスにも参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、終末期ケアについて説明を行い、ご家族の意向を聞くようにしている。状況に応じ、ご家族との話し合いの場を設けるようにしている。	終末期ケアについて入居時に意向を確認している。健康状態に変化があればその都度家族に報告し医療機関、関係機関と話し合い事業所で出来る最大限の対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、救命救急講習を職員全員が受講し、対応を身に付けている。受講できなかった職員も消防署での講習に参加している。AEDの設置をしている。看護師より、酸素の使い方の指導を受ける機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災時の避難経路の確認、利用者様を安全に誘導できる方法を全職員が身につけられる様避難訓練を行っている。水害、災害時等のマニュアルは作成しているが、訓練については実施出来ていない。今後、必要と考えている。	消防署と地域消防団にも参加してもらい、夜間想定も含め訓練をしている。消防署から「大きな声で避難誘導するように」と指導を受け全職員に周知を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、声の大きさ等配慮に努めている。会議でも都度話合っている。	年度初めに職員一人ひとりが方針を立てそれを意識して努力している。利用者を敬い利用者が不快な思いにならない様に態度にも気をつけて接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るような声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせ、食事や入浴の時間等柔軟に対応している。過ごし方についても、ご本人の希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面、髭剃り、整容等一人一人にあった支援を行っている。着替えの際には、好みの物を選んでいただけるよう支援をしている。毛染めやパーマの希望もあり、好みに合わせた支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員は、一緒に同じ食事をいただき、楽しい食事になるよう支援している。食器拭きや盛りつけ等一緒に行っている。月1回希望献立の日を設け、利用者様と献立を決め、買い物、調理を行っている。	定期的に希望献立を取り入れ旬の食材を使った食事を提供している。利用者に合わせて食事形態に配慮している。利用者の出来る力を活かし盛り付けや、後片付けなど職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量、形態を提供している。水分量の少ない方には、ご本人の好きな飲み物を勧めたり、寒天にしたりし水分摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた支援を行っている。毎晩ポリデントで消毒をしている方もある。週に1回は、義歯をポリデント消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄のパターンを把握し、声掛け・誘導を行っている。	排泄チェック表を参考に一人ひとりに合わせた声掛けをして支援している。利用者が不快な思いをしない様に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に努め、体操や散歩の機会を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に沿って、日にちや時間帯は変更し、個々に添った支援を行っている。	利用者の思いやタイミングに合わせて一人ひとりに合わせた入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を見ながら、休息出来るよう支援を行っている。安心して休んでいただけるよう、環境や対応にも配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容が分かるようカルテに綴じてある。薬の変更時には、職員に周知し、変更後の様子観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	盛りつけ、食器拭き、洗濯物干しなどの手伝い、ドライブ、制作活動、歌など個々に合わせた活動を実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日にドライブや散歩を行っている。ご家族と外出される方もあり、ご家族と協力しながら支援している。	天気に合わせて声を掛け紅葉、花見、空港に飛行機を見に出かけたりしている。家族の協力があり家に帰ったり、外食を楽しんでいる人もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布を所持しておられる方は殆どおられないが、事務所で預かり、必要な時に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望がある時は、使用していただいている。手紙のやりとりも、希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさや、温度など過ごしやすい空間作りに努めている。季節を感じる飾りや、季節の花を飾り、季節感を取り入れている。	オープンカウンターで味噌汁の野菜を切る音が聞こえ、庭で咲いた花、実った果実を枝ごと生けるなど生活感や季節感を大事にした環境作りをしている。畳スペースもありテレビ、新聞、雑誌を置き居心地良く過ごせる様に工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、イスやソファを配置し、好きな場所で過ごしていただけるように配慮をしている。テラスや玄関先にもベンチを置き、さまざまな場所で寛いでいただけるよう配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を自宅から持って来ていただいている。仏壇を持って来ておられる方もある。ご家族の写真を飾っておられる方もある。	家族写真や若い頃の写真、読みたい本、趣味の習字を貼るなど思い思いの居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前に名札をかけ、3か所あるトイレには、分かりやすいよう大きな字で「トイレ」と表示している。		